



【5月5～6日テント設営と龍門山読図】

初級登山学校の開校式である。京都駅八条口に19:30集合し車で和歌山へ移動。道の駅さくらの里でテント設営した。M会長作成の「読図」と「幕営」についての資料は大変詳しく今後も大いに役立つことと思う。

プチ宴会の後、明日に備えて就寝、側を通る車の音がうるさい。

翌朝 5 時前に起床し各自朝食を摂り、車で龍門山登山口の一本松に向かった。龍門山には10 年以上前に登ったことがあるが今回は春の草花がきれいだった。会長に花の名前を教わりながらゆっくり歩いたが休憩共4時間半で下山した。帰り道根来寺に参拝に向かったがここは庭園を含めてなかなか見所の多いお寺であった。

【5月12日岩湧山読図】

河内長野駅の階段からバス停を見ると、リュックを背負った人が長蛇の列を作っている。これはいったいなにごと？と驚いたが金剛山に行く人だった。私達は滝畑ダム行きのバスに乗車したが、これも結構人が多くバスは増発されるらしい。

私は今までも山に入るときは地形図とコンパスを携行していたが、今回は読図のスペシャリストに同行いただき、しっかりと勉強しようという意気込みで参加した。

中野バス停で下車し、地形図とコンパスを取り出すも（いつもそうだが）山に入ってからよりもその前の段階で登山口はどちらかな？と迷ってしまう。ほどなく登山口に到着すると地形図どおりに池があり、なるほどと納得した。私達とは別のパーティも地形図とコンパスを手に岩湧山まで抜きつ抜かれつ歩いた。遠くに見えるあの山は何山？とエアリアマップで確認。私はネットで取り出した A4 サイズの地形図しか持っていなかったため、遠くのあの山は？と調べる術がなく反省。

見晴の良い場所で一徳坊山がどの山か？遠くに見えるあのはげ山は何山か？を調べた。はげ山は岩湧山であることは私にも地形図上でしっかりと理解できた、と同時にあんな遠くまで行って日が暮れる前に下山できるのか？と急に心配になった。「今日は読図山行だからゆっくり」と言われていたのに、先頭を歩く私はつつい急ぎ足になってしまった。歩きながら現在地確認のコツを教わる。標高・尾根・谷・針葉樹林であるか広葉樹林であるか等。なるほど目からウロコの話ばかりである。岩湧寺から岩湧山への最後の登りは結構きつくてこたえた。山頂でしばらく休憩し、晴天のこの日に読図山行ができたことに感謝しつつ紀見峠駅目指して歩いた。

9:30 中日野バス停-11:30 一徳坊山-12:00 一徳坊山三角点-12:40 編笠山（昼食）13:00-13:20 岩湧山寺登山口-14:25 岩湧山 14:40-15:10 五ツ辻-15:50 根古峰-16:50 紀見峠駅

【6月9日蓬莱峡岩登り】

宝塚駅前からバスに乗車すると知り合いにバッタリ。彼も岩登りをメインにやっている会に入会し、今日は同じ蓬莱峡で岩登りとのこと。岩登り訓練の私と違い、ハイレベルな岩登りをやっているようだ。

ハーネスを装着しヘルメットをかぶると緊張してきた。ダブルフィッシャーマンズでシュリングを作り、プルーシックやエイトノットの結びの練習。誤ると命に関わるので真剣に教わったがなかなか覚えることができない。

訓練が終わってから Miyake 講師から細引きのお土産とロープワーク練習の宿題が出された。そう言えば高槻労山のホームページにロープの結び方のページがリンクされていたなあ、勉強しなければ。

緩斜面で固定ロープにプルーシックを設定し歩行練習。最上部に到達し労山ハイキングセミナーのときの知り合いを見つけ、ここまでは「T さーん！」と笑顔で手を振る余裕があった。大風横でのトラバース訓練ではプルーシックでロープのカラビナ固定部を通過する練習もした。小風でトップロープを使っただけの登りは実際にやってみると、手足を置く場所がなかなか見つからず苦労した。

ようやく上部に到達すると、下で見学中の先輩諸氏からは「右、右ー」とジェスチャー交えて応援の声がしている。足場は安定しているが岩の上部が張り出しているため横への移動ができない。また下から「右、もっと右ー」と声がかかる。「簡単に言うけど、上が出っ張ってるから横に移動できないのー！」と絶叫する。さてどうしたものか？ここでギブアップしては不名誉なことだ。エイヤッと意を決して足を大きく動かしてようやく移動に成功した。登りに比べれば下りるのは簡単、両手を離してスルスルと下りてきた・・・つもり。下から見ると足場が安定しているように見えたあの場所が、岩の上部の出っ張りのためにあれほど移動に苦労するとは。

蓬莱峡では労山ハイキングセミナーの岩登り訓練をやっていたらしく、セミナー時代の知り合い3名に会った。懐かしくうれしかったが、やはり岩登りは大変だった。

今年は昨年のように日差しがきつくなく、涼しくて助かった。



今日は『蓬莱峡の岩登り訓練&歩荷』となっていたが、飲料水はいつもの倍以上持ってきたし、皆さんにトマトを持ってきたしetc・・・まあいっかーと自分に都合の良いように解釈していたら、ザイルを1束ずつリュックに入れて塩尾寺を過ぎ、下の住宅街までの歩荷が待っていた。今日も先輩諸氏に感謝感謝の一日でした。

(Mitiko)

